

## 宗教団体に政治活動の自由

### 的外れ「政教一致論」への反論

#### 浜四津敏子参議院議員（公明）に聞く

震災関連部分のみ抜粋しています

---

## 関西の地震、迅速な救援

### 神戸の会館 学会員でない人も受け入れ

#### 浜四津参議院議員（公明）に聞く 9面のつづき

### 的外れ「政教一致論」への反論

－「政治家は公僕である」との自覚があったら、こんなことで怒るはずがない。怒ったことによって、彼らの身勝手ぶり、ゲスの勘ぐりぶり、つまりいかに傲慢なエゴイストであるかが証明されたということですね。

**浜四津** 全くその通りです。本来、議員とか社会のリーダーというべき立場に立つ人々は、私益のためでなく、一般庶民の方々のために働かなければいけない、上になればなるほど、社会全体の利益のため、人類益、地球益のために、との気持を忘れてはいけません。それが“公僕”ということだと思います。

ちょっと話がそれますが、今回の兵庫県南部地震のことでも、宗教団体も含めて民間団体は一生懸命、被災者の方々の救援活動をやりました。国民は一流だったけれども政府は無能、無責任だった、などと報じられました。本来、政治、あるいは行政というのは、こういう災害の時に人手も機材も権限もあるわけですし、本当に人命を救おう、とのトップのリーダーの覚悟ができていて取り組めば、それなりの最大限のことができるように揃っているんですね。民間団体はそんなものは全然ないわけです。それなのに、その現場に行ってみると、本当に必死になって救援活動をやっていました。創価学会の人たちも災害が起きてすぐに、皆で何とか一刻も早く助けてあげたい、やれることを全部やってあげようという気持で、婦人部がおにぎりを握って、そのおにぎりを男子部の人々がバイクで届ける。毛布も要るといって、みんなで出し合い、水も薬も暖房もと本当に必死になって救援活動に取り組んでいました。

－創価学会の会館に避難した人々には、学会員であろうとなかろうと平等に、救援を惜しまなかったと聞いていますが。

**浜四津** もちろんその通りです。私たちは創価学会員だけを守る、などという狭い、閉ざされた考えは日頃からありません。すべての人々のために、との指導が常々浸透していますから。長田文化会館は約八割以上が学会員でない方々が避難されていたんですね。そして、本当に学会の方々に助けて頂きましたとおっしゃっていた方々もたくさんおられました。マスコミはそういう事実は報道しませんけれども……。それに比べて政府の対応の遅さ。日本政府の指導的な立場にいる人たちに、庶民の人々を守り助けるのが政治家の責任なんだという自覚があまりにも欠

けていると思います。それがこういういざという時に端的に現われると思いました。

創価学会だけに限らず、他の宗教団体も一生懸命なさったと思います。しかし日蓮正宗の宗務院では、寺と寺に住む住職と家族のことしか関心がなかったようですね。檀信徒や一般の被災者のことは、最初は全く念頭になかった。さすがにそれではいかにもまずいと指摘されて少しは態度を修正したようですが、被災地の正宗寺院は自分たちの檀信徒しか寺に入れないとか、またある日蓮正宗の寺では境内に猛犬を放って“お前たちの来るところじゃない”と、一般の人々を全く寄せ付けなかったという報告を受けています。こういう、いざという時の現実の姿を見れば、その人たちがどういう生き方が一番素晴らしい生き方であると考えているのかがはっきりとわかります。

---

(c) 1995中外日報社(デジタル化：神戸大学附属図書館)